

# 「転倒」による労働災害が多発しています！！

大田原監督署管内の労働災害 令和4年：312名

うち「転倒」災害の割合 69名 全災害のうち22.1%を占めています。

令和5年10月末現在：230名

うち「転倒」災害の割合 56名 全災害のうち24.3%を占めています。

大田原監督署管内の「転倒」による労働災害は、近年、全産業の災害のうち2割～3割を占める状況にあります。さらに、冬季の「転倒」災害は凍結などが起因した事例も多く、例年、多発傾向となっています。

管内では、次の様な「転倒」による労働災害が発生していますので、特に冬季の転倒災害防止対策を中心として、働く皆さんと事業主が協力して、災害防止に努めて下さい。（裏面の災害統計参照）

職 種・月 別	災 害 発 生 状 況
性別・年齢・経験期間	
作業員・1月	事業場敷地内の通路上を就業場所へ向かうため徒歩で移動中、路面が凍結して滑りやすくなっていたため、足を滑らせて転倒。体をかばうため咄嗟に地面についた右手の手首を負傷したものの。 〔対策：敷地内の通路の明確化。また、当該通路における凍結防止の対策（融雪剤など）の措置 など〕
女・60歳代・6年	
事務職・2月	業務で外出後、駐車場から事務所へ戻る際、小走りでぬかるんでいた地面の上を通ったところ足が滑り、土に埋まっていた石に躓き転倒。その際に、埋まっていた石に右足首が接触し、負傷したものの。 〔対策：敷地内の通路の明確化と安全通路の整備。また、事業場内で「走る」など不安全行動の禁止 など〕
女・50歳代・2年	
ドライバー・4月	配送中にトラックのステップから降りようとした時、足元が段差になっているのに気づかず降車したところ、足を段差で捻り体制を崩して転倒。その際に右手を着き痛めたもの。 〔対策：作業行動を起こす前に、特に足元のほか作業環境などの周辺状況に係る確認の徹底 など〕
女・20歳代・6年	
作業員・6月	店舗奥の倉庫から商品を売り場に出そうとした際に、床に置いてある商品が入っている袋を避けようとしてよろめき転倒。その際に持っていた製品を落としてしまい、かばう様に付近にあったはしごに足を強打し負傷したものの。 〔対策：基本的な「整理・整頓」の徹底。また、作業行動を起こす際の周辺状況確認の徹底 など〕
男・40歳代・1年	

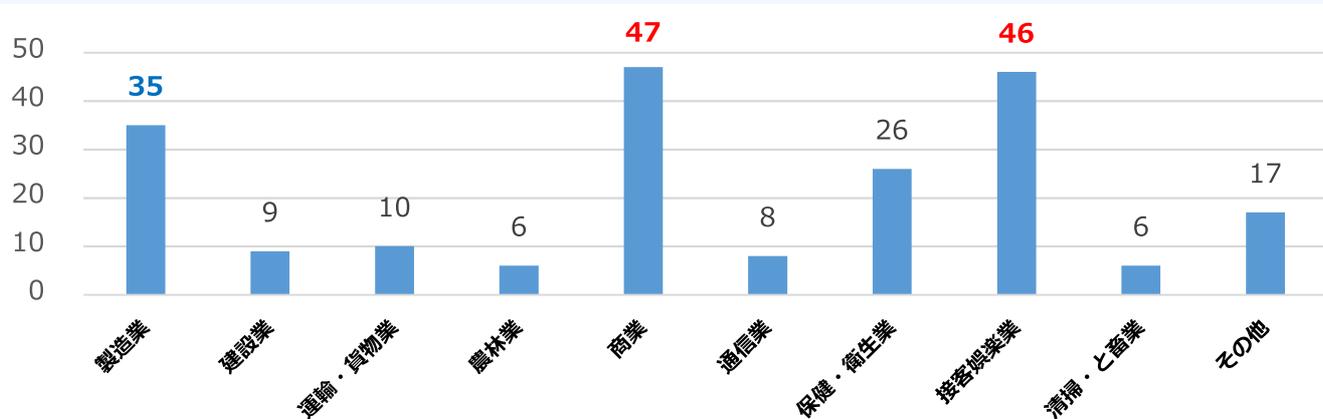
上記の災害事例のほか、①冬季において事業場敷地内の日陰などの凍結や、駐車場・事業場敷地における降雪後における凍結箇所での転倒、②通路を塞ぐ支障物（配線・その他の物など）や作業環境での整理・整頓の不備、③労働中に「慌てる・急いで」の心理的要因による「走る」などの不安全行動など、様々な要因による災害が発生しています。

上記表の災害防止の基本的対策をはじめ、職場で働く一人ひとりが、日常における不安全行動防止の徹底や整理・整頓、作業環境改善の取組など、労使が一丸となって災害防止にお取り組みいただきますようお願い致します。

## 近年における大田原労働基準監督管内の「転倒」災害の傾向

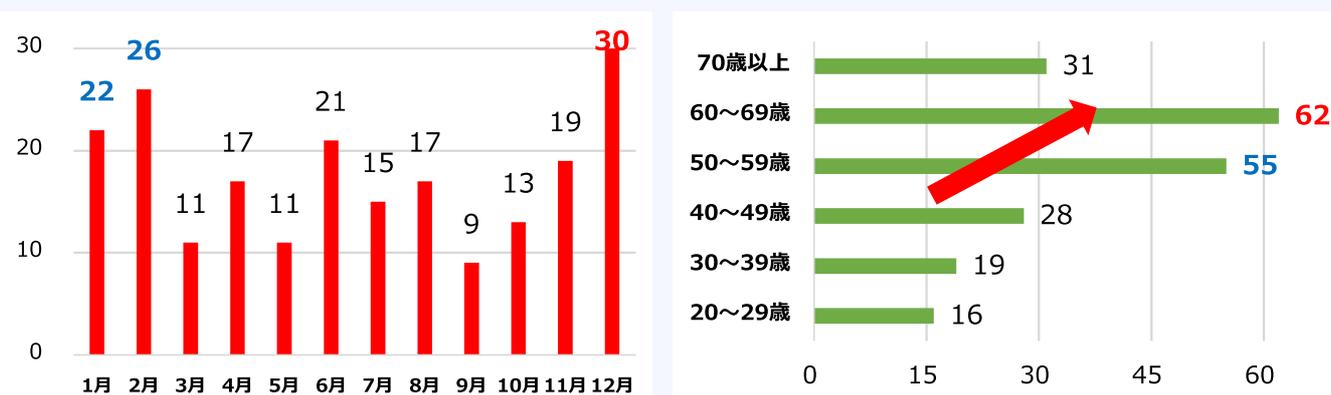
大田原労働基準監督署管内の近年における「転倒」災害は、引き続き高水準の傾向にあり全業種の約4分の1を継続的に占めている状況です。なお、直近の3年間（令和2年～令和4年）の傾向は以下のとおりです。

### ① 業種別発生状況（令和2年～令和4年）



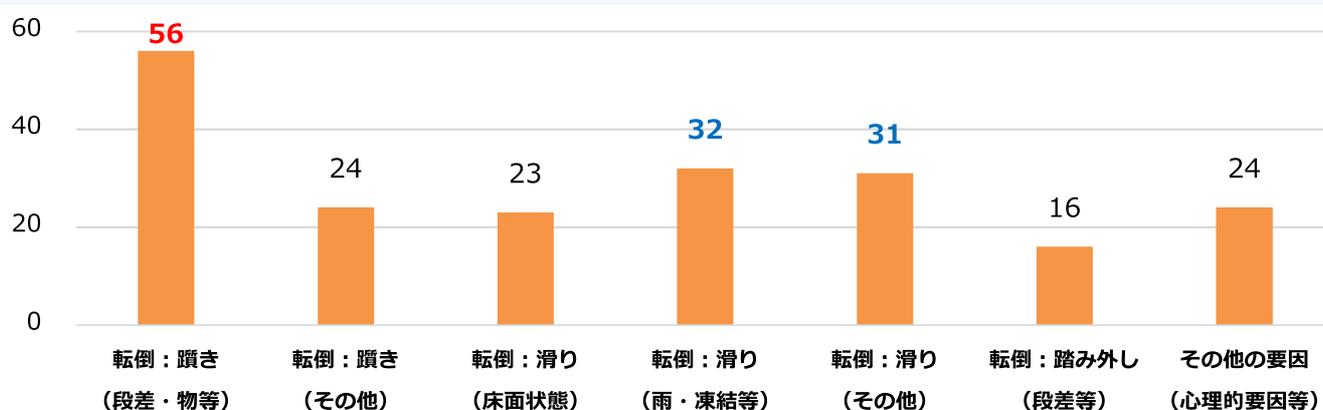
業種別では、特に小売店などの「商業」や旅館業やレジャー施設等を含む「接客娯楽業」などの第三次産業で多発傾向にあるほか、「製造業」においても、同様の傾向にあります。

### ② 発生月別発生状況・年齢別発生状況（令和2年～令和4年）



月別で見ると、年間を通じ一定の発生を見ていますが、特に12月から2月の冬季に多発傾向にあり、年齢別では50歳以上の「高齢労働者」において多発している傾向にあります。

### ③ 行動要因別発生状況（令和2年～令和4年）



要因別では、床面の段差、物等による「躓き」が最も多くを占めています。その他、床面の環境（床面状態、雨や凍結等）などによる滑りも多く認められています。また、労働者の心理的要因（慌てる・急ぐ）による転倒も、一定数発生している状況です。

